

『救急教育環境作りの醸成』

	都道府県名	滋賀県
	所 属	大津市消防局 中消防署 消防第一課 救急係
	氏 名	小田 浩文
	職名・階級	副参事・消防司令
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	平成26年度 指導救命士養成研修 第2期 修了

我々救急隊員として求められる資質とは、それぞれの資格に応じた知識・技術に加え、様々な傷病者に対応するために必要なコミュニケーション能力だ。では、これらの救急隊員に必要な能力を如何にして身に付けていくのか？救急隊員も一人の人間。育った環境も違えば個々の能力も違う。いくら熱心に指導したとしても、指導される側に「気付き」がなければ効果は薄い。人はそれぞれ気付きのポイントやタイミングが異なり、自ら気付こうとしなければ身に付かない。気付くために必要なキーワードは「楽しさ」の追求だ。楽しさを追求するには「主体性」が必要であり、主体性を生むためには自らの「失敗経験」をポジティブに捉える必要がある。自転車を1回も転ばずに乗れるようになった人など誰一人としていないように、転んでは考え、乗れる楽しみを自ら見出す。これが失敗経験から「主体性」が生まれ「楽しさ」を追求した結果、成長していくというプロセスだ。このプロセスに必要なことは「失敗できる環境」だ。

今年度、当局では教育担当者制度を設け、各署所で教育を行っている。担当者は予め定められたカリキュラムを各隊に教育するが、この過程で生まれる心理は「こんな教育して叱られないか？恥をかくのが嫌」だ。そこで私が提供するのは失敗できる環境である。教育担当者には到達目標を示した上で、自由に計画を立てさせ指導させる。結果、目指した成果が出ずとも、元々失敗すると分かっているても実施させる。教育後は決してネガティブな批判はせず、課題抽出と解決に必要なファシリテーションのみ行い、考える時間を設けて再度課題を解決するための場を提供する。今、下半期に入り感じることは、各隊員に主体性が生まれ、訓練を楽しんでいること。一方で、指導救命士のファシリテーション能力と忍耐力が求められるということ。今後も、失敗できる環境作りの醸成に努めつつ、自身に求められる能力の向上に努めたい。